

主図版① 「・寿命・慈悲・歡樂・満足・」

壽命



歡樂



慈悲



滿足



図版③ 『日本・天平経』

図版② 『唐・薬師経』 原寸図版

事殷爰憑し夜之餘式贊弥天之德課虛和  
源歲稔時和遠安述肅願以萬機勞惄四海

時薄伽梵說是語已諸菩薩摩訶薩及大  
聲聞國王大臣婆羅門居士天龍藥叉健達縛  
阿素洛揭路荼緊捺落莫呼洛伽人非人等一  
事殷爰憑し夜之餘式贊弥天之德課虛和  
源歲稔時和遠安述肅願以萬機勞惄四海

## 「唐・薬師経断簡⑤」

7～8世紀頃

「薬師経」の巻末部分である。巻末から90行ほどがあり、巻頭は失われている。残された90行ほど始めの部分には少し焼け焦げた痕跡が見られる。1行17字詰めの整齊な楷書であり、初唐の書風である。起筆や転折、左右の払いの筆勢は、実際にキビキビとした趣を示している。また横画や左右の払いなどには、やや大きな抑揚が見られる。

右頁の主図版は、90行の中から、二字句を4件集めて示した。使用された小筆は、穂先の鋭く弾力のある細い毛で作られたものであろうか。起筆

の先端や終筆の端に綿毛のような細い線が飛び出し、筆の運びの滑らかな筆勢の連動する様を見る事ができる。左頁では、日本の天平経と比較して並べてみた。書法的には、同時代の書と見ることができるようか。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤滋 メールアドレス  
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2016)



第65回毎日書道展出品作 「嶽」

福 島 李 舟



### 師との出会いふり返って

東京生まれ。両親の故郷、群馬県富岡市の片田舎で小・中学校時代を過す。父の転勤で高崎に移り、県立高崎女子高校に入学、書く事が好きだった私は書道部に入る。そこで山本聿水先生と出会う。大澤雅休先生を慕って、富山から高崎の地に来られた山本先生は、中島邑水先生の後任として、高崎女子高校に赴任され丁度10年目、血氣盛んな時代だった。厳しく熱心に指導して下さった。顔真卿をよく愛する先生は「出来る事なら、私は顔真卿の筆の穂先になりたい」と話されてはお手本を書いて下さった。その筆の妙技に私達は魅せられ、先生の偉大さを感じた。「大澤雅休先生・棟方志功先生との『巡り会い』『出会い』がこの上ない幸せ」とも話して下さった。そして私も顔法が好きになってしまった。

全国学生書道展で優勝を重ねる伝統ある書道部（部員60余名）の部長となり、文部大臣奨励賞、冬の条幅展で準大賞を戴いた作品も顔法だった。厳しく怖そう

であったが、心の優しい慈愛に満ちた先生は、3年生の時のクラス担任でもあり、まさに思い出深い学生時代であった。卒業と同時に白玄会（山本先生の主宰）に入会、展覧会では前衛書の出品が始まった。山本先生は前衛作品の制作に当たり古典の臨書への追求・視野を広く、造形の中に美的本体を見出す・驚きと感動、情感をもつこと・「書く」とは撫でて書くのではなく「引搔く」の搔くである・作品の幅広い鑑賞」と話す。

山あり、谷ありでブランクの時など筆まめな先生のお手紙（今では宝物）に、何度も励まされ「書の道は細く長くだよ」と話された事をも思い出し、牛歩の如く、振り返れば57年の時が流れた。

山好きな主人と巡り会い、登山を続けている。一つ一つの展覧会を目指し、感動出来る作品を目指し、書き続ける。まだまだ続く長い書の道のり、一步ずつ進んで行く。山登りも一步一步、辛く厳しい。だが、その先には登った者しか味えない、大きな感動がある。まさに書道は高い山である。大分近づいたと思つても、また、遠くに去つて行く、雄大な山々を仰ぎ、南アルプスで見た「彩雲」（虹色に輝き幸せを届ける雲）、心に残る大自然の美しさに触れ、頂上では思わずバンザイ！  
登山は前衛書の作品創りに、私にとって大きな力だ。富士山を筆頭に、百名山の北岳・穗高・槍ヶ岳…と現在51座を踏破した。心を鍛え、技術を磨き、表現力を高めるには体力が必要。そのため山に登る。

書の主義・主張をしっかりと持つて、「吾以外皆我師」をモットーに、これらも書の道を深めていきたい。



## 丙申歳旦を祝して

頌

春

明けましておめでとうございます。  
2016年、平成28年の新しき年をお迎えし、  
皆様のご多幸をお祈りいたします。  
本年は2月に第69回書道芸術院展を迎えることとなり、記念すべき70回展を目前に、  
更なる発展を願う年でもあります。併催の  
第67回全国学生書道展共々よろしくご支援、  
ご協力賜りますようお願い申し上げます。  
昨年12月中旬に一般公募・無鑑査作品の  
搬入を終え、1月中旬に鑑別審査、2月初  
賞旬には審査会員候補、審査会員対象の特別  
選考が行われます。2月17日から21日ま  
で東京都美術館で盛大に開催されることに  
なっております。21日には帝国ホテルにて  
学年展表彰式、書道芸術院展表彰式さらに  
午前、会場が予定されております。22日最終日  
午前、会場にて作品研究会も企画されてお  
ります。多くの方々のご参加をお願いしま  
す。その他、8月には九州大分での単位認定  
講習会、10月にはセントラルミュージアム  
銀座での秋季展と主要行事が予定されてお  
ります。会员諸氏のご支援ご協力をよろしく  
お願いいたします。

平成28年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長  
辻元大雲  
役員一同

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 一般財団法人毎日書道会理事会

### 第68回毎日書道展主要人事

参与会員に北海道支局齊藤雨城氏推挙

12月11日一般財団法人毎日書道会理事会が開催され、平成28年度事業計画・予算の審議、第68回展の主要役員、名譽会員・参与会員はじめ昇格人事などが決定された。

28年度の事業はほぼ例年通りの計画で、68回展ほか新春展・チャリティ展・国際高校生選抜書展ほか各地方での展覧会などを実施する。好評の干支切手は十二支が一巡したことにより、本年発行の「申」で終了する。

### 第68回展主要人事

実行委員長 仲川恭司(独立)

総務部長 片岡重和(独立)

審査部長 鬼頭墨峻(日書)

陳列部長 北野攝山(響)

運営委員(院関係)

漢字部 種谷萬城

かな部 大辻多希子

近代詩文書部 田村鄭雲

大字書部 石田春窓

前衛書部 津田海仙

東北仙台展実行委員長 嵐嶽大拙

名譽会員推挙 桑山大道(玄潮)

参与会員推挙 齋藤雨城ほか8名

- 規定による審査会員昇格

松村くに子(書泉)

日良泰幽(白扇・市原)

- 同会員昇格

(漢字) 大川代香、(かな) 稲村由宇

記、(近詩) 阿部恵泉、佐藤星沙、高橋四蓮、(大字) 木佐貴鮮水、浜口瑞香、松浦智扇、横井正江、(刻字) 高橋芳琴、(前衛) 桑島有子、高原梨秀、野口加奈、和田敬子

・会友昇格(全体で692名)省略

・現代の書新春展出品者

(和光会場) 1/5~11日(月・祝)

辻元大雲・下谷洋子

1/8 15時~ 辻元大雲

(セントラル会場100人展) 同会期

飯高和子・石井明子・大野祥雲・小竹石雲・後藤大峰・小林琴水・最首翠風・坂本素雪・砂本杏花・畠中弄石・浜谷芳仙・村野大仙

・イベント 和光会場

3月7日~4月2日まで4期に分け

て開催。会場アートサロン毎日

### 高野山書道協会役員改選

高野山書道協会では3年ごとに理事を中心として改選されることになつて

おり、本年12月で改選期を迎える新体制が発足した。(顧問以外院関係)

・顧問 関口春芳・林竹聲・宮崎紫光

・副会長 辻元大雲ほか留任

・常務理事 種谷萬城(新)

・理事 千葉蒼玄(新)

・参与 大野祥雲・嵯峨大拙(新)

・第51回展主要役員

・審査委員長 鬼頭墨峻

・審査副委員長 種谷萬城ほか3名

大会運営委員 下谷洋子ほか12名

当番審査員 辻元大雲・下谷洋子・

出品者(院関係) 恩地春洋・辻元大

雲・下谷洋子・香川倫子・小伏竹村・

浜谷芳仙・村野大仙・大野祥雲・小竹

石雲・千葉蒼玄・小山鳳来・黒川江偉

子・山藤美知子・西林乘宣・宮澤梅径・

飯高和子・板垣洞仙・太田蓮紅・大辻

多希子・大平邑峰・加瀬澄春・後藤大

峰・小浜大明・小林琴水・佐藤菜扇・種谷萬城・田村鄭雲・田守光昭・塚越紅苑・津田海仙・浜田堂光・平川峰子・前田龍雲・山口仙草(副部長以上・当

・東京展 品川別院 8月26~28日  
半紙による学生・一般とも応募できます。一般部は献書部門もあり多数の出品ご協力をお願いしたい。

### 第69回書道芸術院展 無鑑査・一般公募作品搬入

・作品価格 参与会員以上

当番審ほか 32400円

54000円

75000円

チヤリティへのご協力をお願いします。

・2016毎日書道展新会員作家展

3月7日~4月2日まで4期に分け

て開催。会場アートサロン毎日

12月18~19日両日第69回書道芸術院展無鑑査および一般公募作品の書類・作品搬入が行われた。この数年来出品数の減少傾向は止まらず、特に一般公募の出品は出品料の軽減を30歳以下及び70歳以上の高齢者への配慮を行つているが歯止めはかかっていない。会員各位のご協力を切にお願いしたい。

中国書法家協会役員改選

5年ごとに行われる中国書法家協会の役員改選が12月8日行われ発表されました。(主な役員)

・名誉主席 沈鵬・張海(前主席)

・副主席 蘇士樹

・副主席 陳洪武ほか14名

・秘書長 鄭曉華

・副秘書長 潘文海・曹建明

部 門	無鑑査	一般公募
漢 字 部	364	228
か な 部	73	83
現 代 詩 文 書 部	327	224
篆 刻 ・ 刻 字 部	36	33
前 衛 書 部	195	120
計	995	688

## 漢字(四)

竹本龍汀

かな(四)

小島孝予



竹本龍汀書

今回の作品は山口の大島から見た初日の出、厚く重なる雲の間から顔を出す太陽、海に映る光、波のうねりのイメージを一気に書いたもの。海のイメージを表現するとき、絵としての具象性にとらわれないで、あくまで文字性を大事にするように心掛けた。

書作品を書くだけでなく、その合間によく絵を書く。硯の横に筆洗と小皿を用意して、気の向いた時に筆に水を含ませ、筆先に墨を取り、小皿と硯で墨色を調整して、あり合わせの画仙紙に書くといった簡単な水墨画を楽しんでいる。画家のように丁寧に輪郭を描いて、色を塗り込む絵ではなく、輪郭は細線、塗り込みや濃淡の変化は太い線で書く。画題が何かが伝われば、正確な写実性にこだわらない、俳画レベルの線画のイメージ画をめざしている。

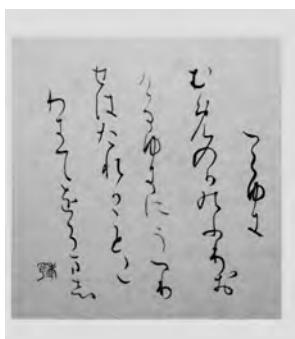
線を書き進む中に心の動きを移入し、線の動きと構成に生き感を生み出す点に於いて、書と画は、古来から書画同源と云われ源を一にする。雪舟や狩野派前期の水墨画に心を惹かれる。時々、眞面目に臨書ならぬ臨画を試みている。

## 21世紀の書 —私の主張—



松延会会展出品作「寸松庵色紙」

小島孝予書



拡大(部分)

「古筆を学ぶ」とこと今年の玉松会展のこと。他の先生から、幸運にも作品の寸評を受けた。先生はにこやかな表情から一変、キリッとしたお顔になり、「あなたの作品の意図が伝わってこない。」そして「古筆を何か一つでよいから、これというものを取り入れただいくことが大事です。そのためには、色々な古筆を学び、その中から表現したいものを選び、しっかりと学んでいく。自己流で、単なる配置で綺麗に收めるだけではダメなのですよ。」と、真剣なまなざしでご指導下さった。

掲載の作品は松延会展に出品した「寸松庵色紙」である。当時、師から古筆を学ぶようとに指導され、臨書に取り組んだ。中でも「かなの名品」といわれる寸松庵色紙を学んでいる折に「かな作家協会」の講義を受講し、その可憐で優麗な書風に魅了された。その後一年かけて臨書を重ね、帖に仕立てることができた。あれから十数年、作品に追つられて臨書と向き合うことが少なくなつて、いたことを深く反省し、新たな気持ちで古筆の学びを積み重ねてきれるよう精進努力していきたい。

# 書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成27年11月23日(月・祝)  
於 上野精養軒

# 「書を奏でるとき」

## 講師 石飛博光先生

＜公開講演会＞

理事長  
辻元大雲

本院恒例の創立記念日特別講演会が

開催され充実した催しとなつた。今回は毎日書道会理事・創玄書道会理事長として今書道界で最も匂な人、石飛博光先生を講師としてご依頼した。

演題は「書を奏でるとき」と題し、先生のユーモア溢れる楽しくも内容の濃い講演であった。冒頭から筆を執ら

まつた。文字ずつそれぞれ表現を変え、また筆題への導入、聴衆の予想を裏切る展開となつた。書の表現の多様さ奥深さをまず実作により具体的に例示され、非常に具体的で分かりやすいお話をから始

書に対する心構え、作品化への表現力、構想力は如何に培うか、発想から具体化へのステップアップは如何にするべきかを分かりやすいユーモア溢れる話しきと実際に筆を執つて書いて見せた下さったことは、参加者にとって理解しやすく極めて身近に感じられた内容であった。



辻元理事長による講師紹介



講演中の石飛先生



書かれた作品は30点余りと多岐にわたり、大きさも半紙大から全紙 $\frac{1}{2}$ 大、更に2枚組と徐々に大きくなつてと大サービス、筆も多様な種類の筆をご持参された。さり、取つかえ引っかえ揮毫された。会場前面のボードに張り出していただけき、お話の内容が作品として掲示され、見やすくまた理解しやすかつた。

ご揮毫された作例は全てご寄贈いた  
だき、続いて開催された懇親祝賀会の  
終了時に参加者へプレゼントしていた  
だいた。石飛先生とのジャンケンで勝  
負して勝者に全てプレゼントしていた  
だいたことは参加者にとり思いがけぬ  
ことであり皆大喜びであった。楽しく  
も充実した講演会であった。

## △懇親会

### 三浦 鄭街

創立記念日の午前に書道芸術院の顧問、評議員の先生方にも出席頂き理事会が開催されました。午後からの石飛博光先生の公開講演会は大いに盛り上がりました。終了後、恒例の懇親会を行いました。

懇親会は（公財）書道芸術院 辻元大雲理事長のご挨拶に始まり、石飛博光先生のご挨拶、毎日書道会西村事務局長の乾杯、とても和やかな雰囲気の中、全国13の総局支局長の先生方から行事報告、行事予定、展覧会等のご案内が、以下の通り紹介されました。

△北日本支局▽田中扇溪・柳町祥香二人展が11月19日から23日アートサロン毎日で開催。△東北総局▽千葉蒼玄の世界・12月11日から16日まで東北工業大学で開催。△北関東総局▽金井如水先生が5月に群馬県の総合表彰を受けられ、また県の書道協会会长に就任。9月に毎日書道審査会員・会員群馬展の開催。「上野三碑世界記憶遺産登録」を目指す。△南関東総局▽日本童謡の書展が12月8日より13日まで千葉県立美術館で、白扇書道会選抜展が1月4日から10日までアートサロン毎日で、新春書道展が成田観光館で、新春書道展が成田駅前スカイタウンで1月4日から11日まで開催。邑門会書展が2月14日から20日まで東京交通会館で開催。△東京総局▽1月5日から10日

まで銀座清月堂画廊で鑒香会会展を開催。△北陸支局▽8月に書径展、10月に講習会。△関西総局▽9月29日から10月4日まで玄遠社展、毎日関西代表作家

展では恩地、小伏先生はじめ5人の先生の揮毫会、春洋会展、竹扇会展、砂本社中展、畠中社中展開催。△山陰支局▽70回記念巡回展は耐震改装された倉吉博物館を予定。△山陽支局▽70回巡回展は岡山から山口へ会場変更。

△四国支局▽児童生徒の書写実技指導を10年間。△九州支局▽7月23日から26日まで第20回記念九州支局展開催。来年の単位認定講習会は九州支局が担当で牧支局長から「レンブラントホテル大分で平成28年8月20日（土）～21日（日）に開催します。皆様奮ってご参加を。」と案内がありました。

新年1月5日から毎日書道会主催「現代の書新春展」、1月4日からTOKYO書2016の出品者、名越蒼竹、勝山初美、倉林紅瑠各先生の紹介。1月21日から「現代女流書100人展」それぞれの出品者の先生方の紹介もありました。

した。

中締めは毎日新聞社学芸部記者の桐山正寿様にお願いいたしました。

第69回書道芸術院展、併催される第67回全国学生書道展も、それぞれの担当部署が日々と準備を進めている中での懇親会はとても充実した楽しい一時でした。

事務局次長として司会進行の大役を

任せられ、皆様のご協力により無事終了出来ました。ありがとうございました。

懇親会の報告といたします。



揮毫しながらの講演



午前中に行われた理事会



懇親会で石飛先生のご挨拶



西村修一毎日書道会事務局長による乾杯のご発声

（写真 前田龍雲）

書譜（唐・孫過庭）①

〈解説〉書譜は孫過庭が垂拱3年（887年）、自ら著した書論である。

四賢（鍾繇・張芝・王羲之・王獻之）と称される能書家の比較、書芸術の価値および書の技法や学書法を論じている。

孫過庭は、唐代において王羲之の書法を継承し、さらにその書

法を発展させた。この書譜は運筆変化が妙であり、王羲之の「十七帖」とともに草書の代表的な古典である。

真跡（肉筆で書かれた草稿本。全文369行3727字、紙本で約27cm×908mmの巻子仕立て）が台湾の故宮博物院に所蔵されている。（編集部）

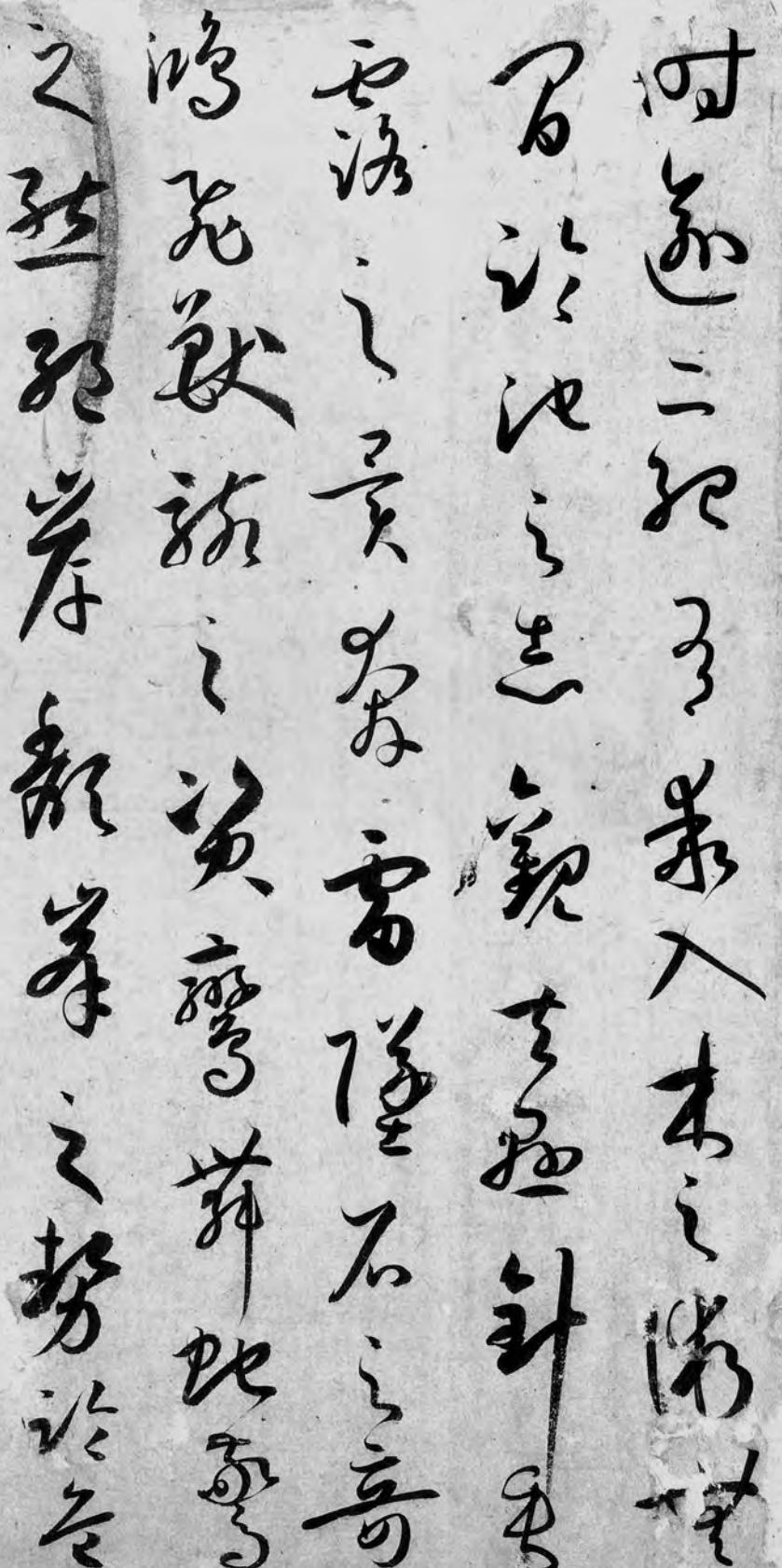
特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）

当該古典の左記掲載部分以外も可。

漢字研究部臨書課題

（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字を臨書してもよい。



時逾一紀。有乖入木之術。無間臨池之志。觀夫懸針垂露之異。奔雷墜石之奇。鴻飛獸駭之資。鸞舞蛇驚之態。絕岸頽峯之勢。臨危

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

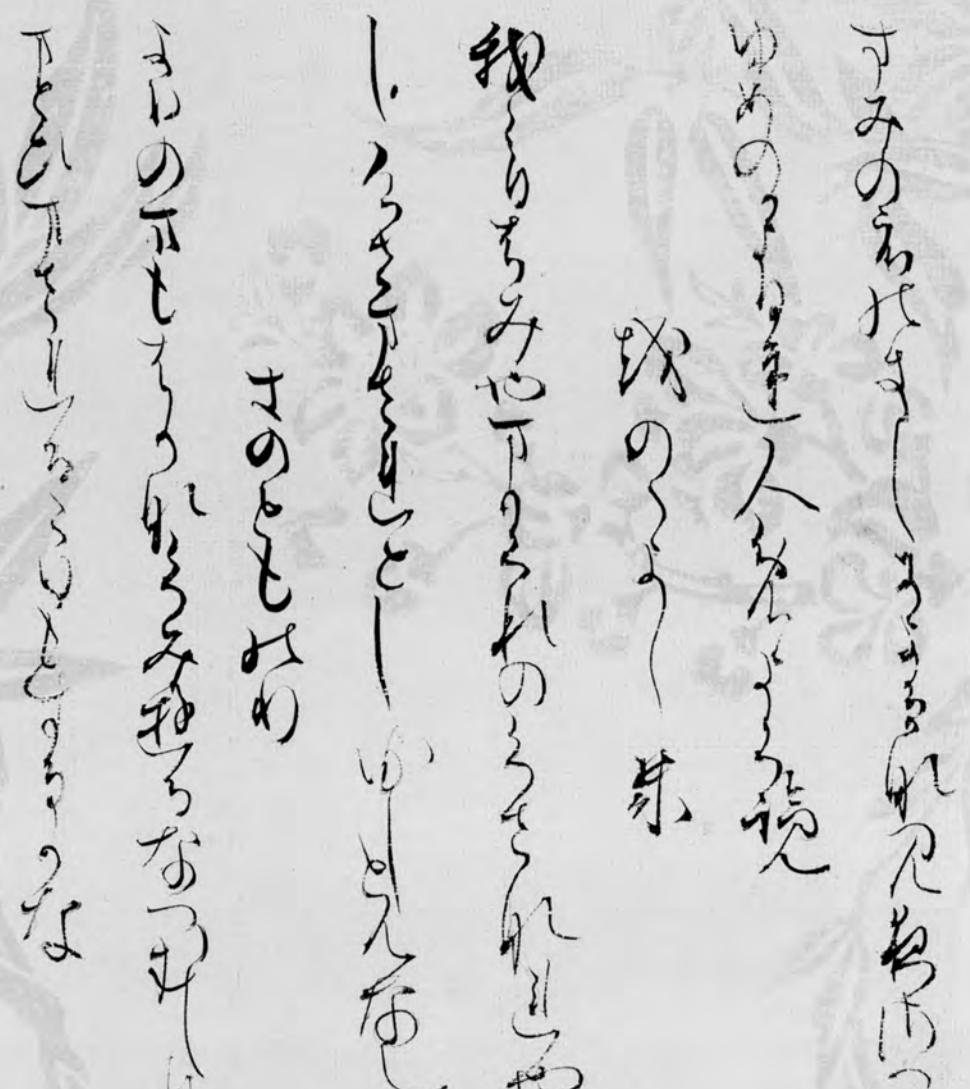
## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

## かな研究部臨書課題

II (半紙普通判 (料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)



(京都国立博物館蔵)

解説 本阿弥切は、近世初期の能書家本阿  
弥光悦(1558~1637)が一部を愛蔵していたこと  
からこの名がある。「古今和歌集」を書写し  
たものである。もとは巻子本で、巻第12の一  
巻(国宝・京都国立博物館蔵)、巻第16の大  
半と巻第17の一部を継いだ一巻(宮内庁三の  
丸尚蔵館)が零巻(完本ではなく一部が欠け  
た巻物)として現存するほか、多くの断簡が  
各家に分蔵されている。

料紙は各縦16.7cm、横28.4cmの小さな唐紙を継  
いだもので、小粒で円みを帯びた字形が力強  
い筆勢で書写されている。  
古来、小野道風(894~956)筆と伝称され  
きたが、料紙、書風から12世紀前半の遺品と  
考えられる。

(※掲載図版は原寸)

(編集部)

習い方解説 (四)

大野祥雲



学道則愛人 よみ（道を学べば、則ち人を愛す）

書体＝自由

学道則愛人  
(道を学べば、則ち人を愛す)  
(論語)

指導者が道を学べば、自然と人々を愛するようになる。「道」は礼学をいう。

「学」いわゆる書写体のため上部の画数が多い。筆先を利かして書く。

「道」首が「」の上にうまくの大ささに。11、12画の方向も構成上大切。

「則」偏と旁の調和、縦画の大きさとそり具合、接筆、余白など一応考える。

「愛」愛の手である「」を大きめに、包む意の「」も幅広く。

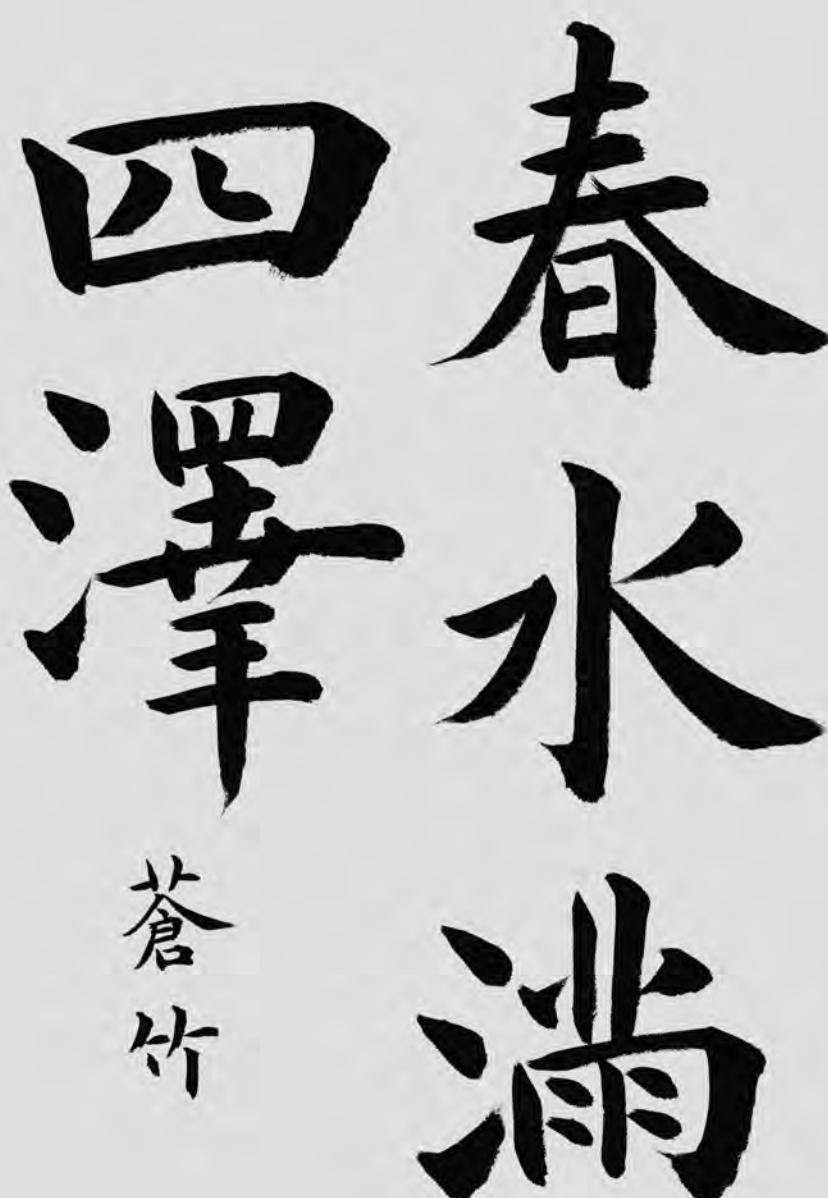
下部の心の状態を示す「夕」もしつかり書いて上部を支える。  
「人」この文字は身体を側面から見た形。左右の払いを紙にいく込む深い線で伸びやかに。

習い方解説 (四)

名 越 蒼 竹

春水満四澤  
(春水四澤に満つ)

(陶潛)



書体＝楷書

孔子廟堂碑は起筆・終筆が穩や  
かであるものの芯は強く、伸びや  
かなところが特徴です。その伸び  
やかさを出すために文字の手足は  
長くしてあります。落ち着いた書  
き振りの中に内に秘めた強さを表  
現したいものです。払いの部分は  
カチッと止めてから払わないで、  
ゆったりと長めに払うと感じが出  
ると思います。

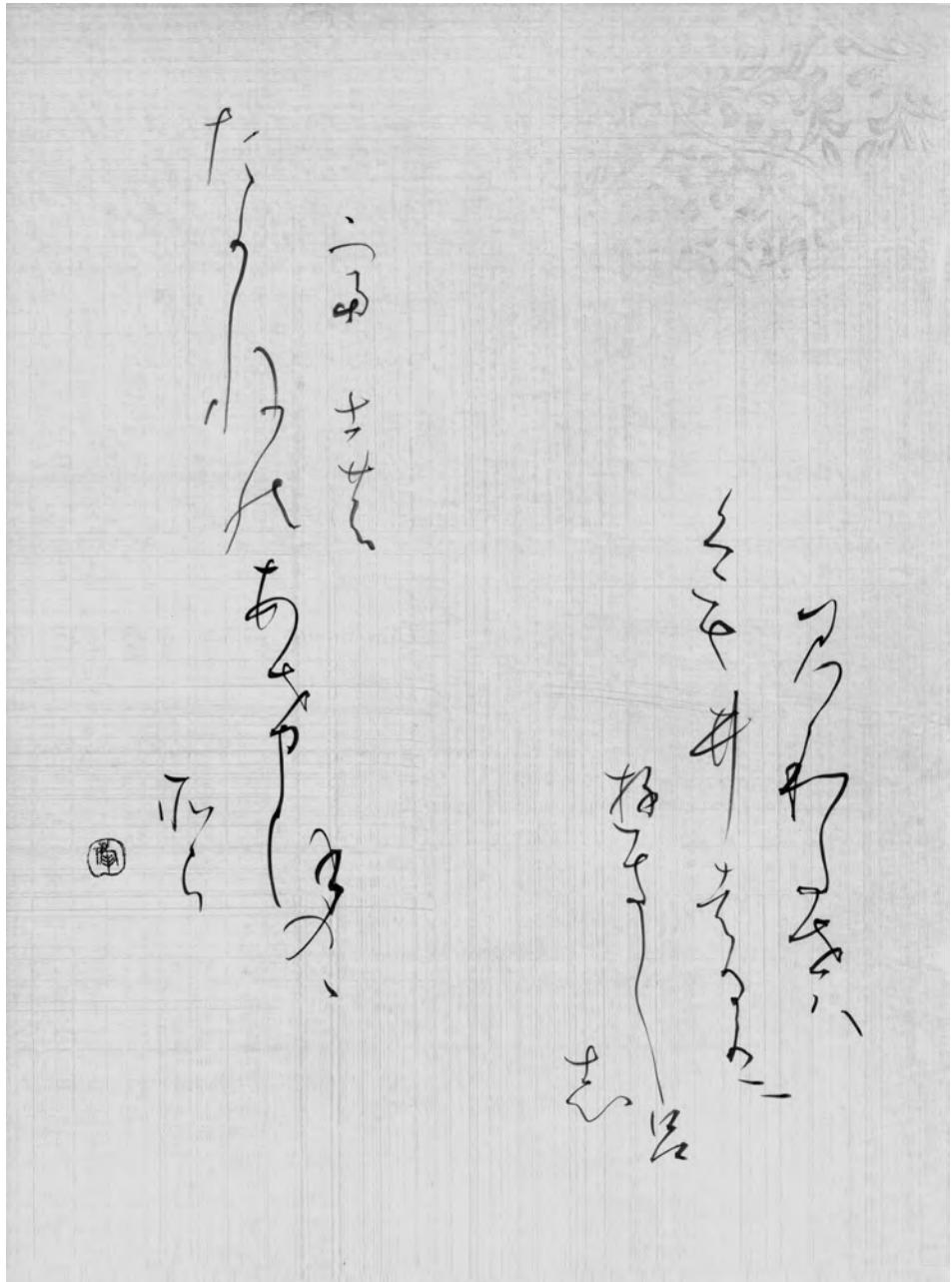
「満」は書写体、「澤」は旧字体  
を用いました。

春水満四澤 よみ (春水四澤に満つ)

習い方解説 (四)

平川峰子

見わたせば雲井はるかに雪白し  
富士の高根のあけばのの空  
(源 実朝)



散らしの構成は右上に余白を取り、右行の行末の全景が船底型になるよう気を付けました。散らし方の基本を学ぶには、三色紙と言われる寸松庵色紙、絶色紙、升色紙が参考になります。濃淡をどう配置するか、行の間隔、行の流れ方など古筆から学ぶことが多くあります。

また、書く前の筆慣らしも大切です。螺旋を何本も書いてみましょう。途中渴筆になつてきても速度を落としながらゆっくりしばり出すように捻転を続けることで、美しい線が生まれます。

富士の高根は、作者の実朝が高い嶺(みね)の意味の高嶺(ね)を当て字として高根(ね)にしています。

墨継ぎは終句でしました。

よみ方 見わ(和)た(多)せ(世)ば(八)く(久)も(毛)井は(者)るか(可)に(一)ゆ(遊)き(支)しろ(呂)し(志)

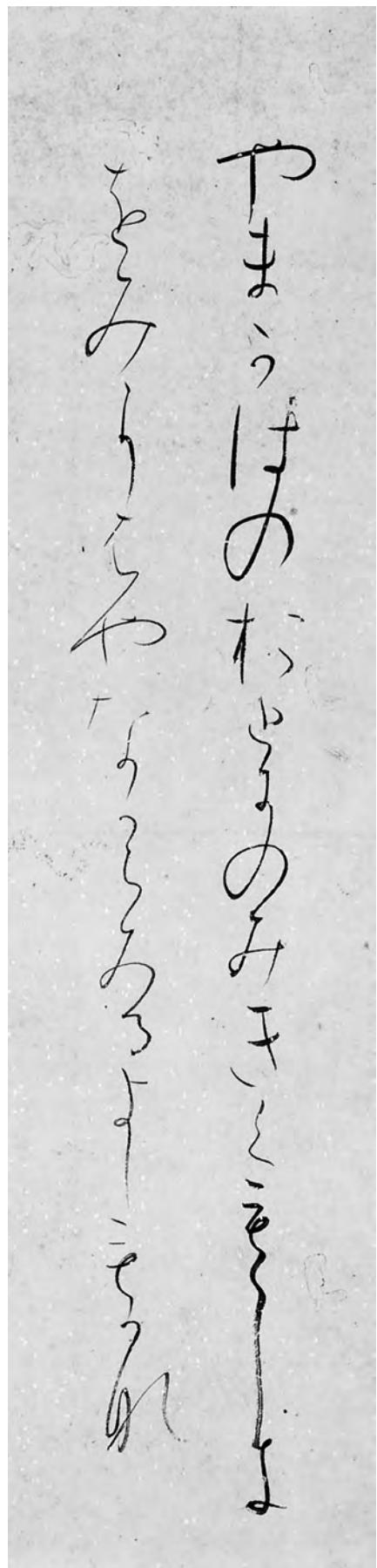
富士の(農)たか(可)ねの(能)あけ(希)ば(保)のの(一)そ(所)ら

創作

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 やまが(可)はのお(於)とに(尔)のみきく(久も)(毛)へしき(枚)  
をみを(平)は(者)やなが(可)らみるよしも(毛)が(可)な(那)

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

### 習い方解説 (一)

奥田瑞舟

福寿草・黄金・花・春と華やか  
に表現できる歌です。  
ふんじもる春にあひにけりしも

(尾山篤一郎)

福寿草・黄金・花・春と華やか

に表現できる歌です。

1行目を見ながら、同じ調子に  
ならないように潤滑・疎密等工夫  
してください。文字は程よい大きさで  
気持よく仕上げてください。

\*たて形式に限る

よみ方

福寿草黄金(こがね)花ぐき(支)ほのぼのと

ふんじも(裏)る春に(一)あひに(尔)け(遣)らしも(叶)

創作

漢字条幅規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

坂元大雲選書

## 習い方解説 (四)

坂元大雲

14



春風卷入碧雲去  
千門萬戸皆春聲  
(春風卷いて碧雲に入りて去り、  
千門萬戸皆春聲)  
(李白)

書体=自由

初春のめでたい太平の世のよろこびを謳った句です。  
ここまで七言一句十四文字の句で、半切2行書きには一般的でまとめてやすいと思います。  
今回はほとんど草書で連綿が多く用されています。書き慣れないと難しいかと思いますが、単体でも構わないと思います。いろいろ挑戦してみてください。

\*たて形式に限る

### 習い方解説 (四)

坂元大雲

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

坂元大雲選書



半山残月露華冷  
兩岸野風蓮萼香  
(半山の残月露華冷かに、兩岸の野風蓮萼香し)

一山の一方にかかった夜明けの月に白露冷やかに宿り、両岸に吹く野辺の風は蓮の花を渡つて香りがよいーの意。終始習いやしく親しみやすい行書体で現代詩文書ふうに書いてみました。明くる軽く、決して構えることなく淡々と、敢えて作為なく連綿を無くしてみました。余り気楽にやり過ぎると品格の無い作品になるので、美し

習い方解説 (四)

小伏 小扇

滝廉太郎の荒城の月です。

春高樓の花の宴

春高樓の花の宴

春高樓の花の宴

巡る盃影さして

巡る盃影さして

巡る盃影さして

巡る盃影さして

巡る盃影さして

巡る盃影さして

巡る盃影さして

千代の松が枝分け出でし

昔の光今いづこ

昔の光今いづこ

昔の光今いづこ

昔の光今いづこ

与えられた紙面を、書こうとする文  
章の分量をよく考えて、全体が美しく  
調和するよう注意しましょう。

漢字とかなの、それぞれに流れるリ  
ズムを一貫させましょう。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

荒城の月より 小扇書

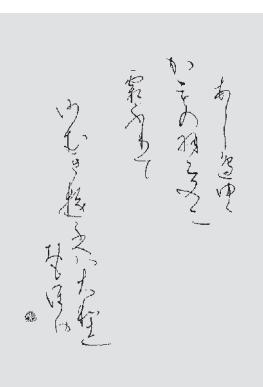
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

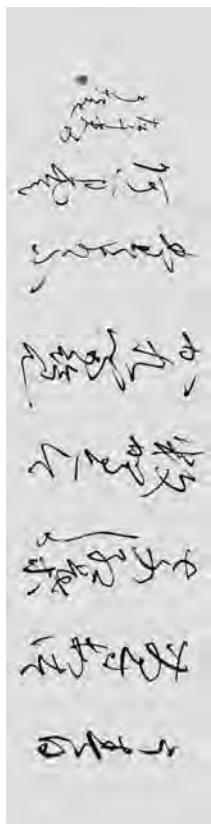
今月の

# ホープ作品 各部総評

No. 655



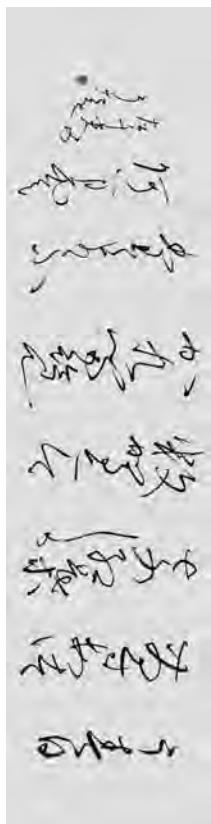
かな部 師範 酒井 恵子  
抑制的きいた表現が歌意に添い、  
万葉集の雰囲気を満喫させてくれ  
る。美しい線が創る余白が絶妙。  
◎かな部總評 漢字鴨と変体がな  
奉に曖昧な字が多く残念。座右に  
字典を用意のこと。墨量、字粒は  
バランスを重視のこと。(明子評)



前衛書部 特選 後藤 美希

直線構成の鋭い線質で安定した  
作品となっている。素材の工夫に  
より更なる飛躍を望みます。

◎前衛書部總評 点数は安定して  
おり今は濃墨作品が多く好まし  
い。印位置、紙質配慮を。(仙草評)



現代詩文書部 特選 大和 愛香

詩情表現、見事。運筆速度と線  
質の強弱で楽しく遊んでいる。空  
間も美しく、落款絶妙である。

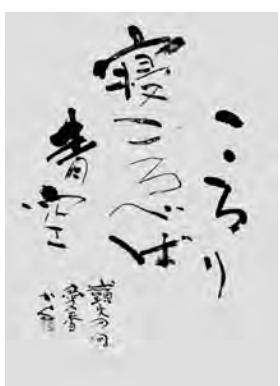
◎現代詩文書部總評 何を書くか  
が大事な事で、目的のない作品は  
人に感動を与えない。(素雪評)



漢字条幅部 師範 後藤 良泉

漢字条幅部 師範 後藤 良泉  
切れ味良く、練達の書。堅めの  
紙を用いているが更に紙質の異な  
る素材で線質が変つて来るだろう。

◎漢字条幅部總評 下級は作品に  
対して落款不調和の作多し。上級  
はペテランに書風の工夫が多々見  
られた。(翠風評)



ペン字部 師範 高木 佳月

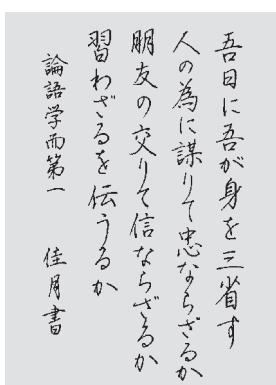
書線充実し、一画一画丁寧に書か  
れている。線の重厚さに加えて布置  
も見事な作品。今後に期待する。

◎ペン字部總評 ペン字作品も書  
作品同様に立体感のある作品を目  
指して下さい。潤渴、リズムの変  
化で、より良い方向へ。(鄭街評)



かな条幅部 準師 辻山 美艸  
バランスよく收め、すつきりと  
リズムも滑らかに運筆白眉。線が  
細いので筆圧の加減を工夫したい。  
◎かな条幅部總評 紙面に対する  
字の大小、行間の取り方など調和  
を欠いた作が多かった。手本をし  
っかり検証してほしい。(洋子評)

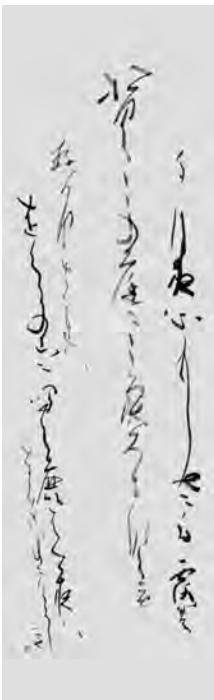
漢字部 師範 島貴 翠燐  
ねばりある筆致で紙面に大きく  
展開した作。濃墨、柔毫筆の暢達  
した線はリズミカルな氣分を醸す。  
◎漢字部總評 全般的に参考例を  
基にした応募作が多いが、形だけ  
をまねた作多し。基本的な運筆の  
リズムが伴うことが肝要。(大雲評)



吾身に吾が身を三省す  
人の為に謀りて忠からざるか  
朋友の交りて信ならざるか  
留めざるを伝うるか  
論語学而第一 位月書

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



井上芝雲書

176×55cm

かな  
(八街)

「万葉二首」

井上芝雲

臨書

(樹原社) 紺野遊山 「祭姪文稿」



135×70cm

紺野遊山臨

◆祭姪文稿の特徴をよく捉らえ、実際に堂々とした臨書。全紙大へ2行書きの真正面から取り組む姿勢を買う。

(大雲評)

◆堂々たる大字臨書作品。顔真卿の精神を作者の身体で受け留めている。落款も調和して見事。

(翠風評)

◆威風堂々と筆を運び、見る者を引き込む。重厚さと率意さに溢れた祭姪をかなり書き込んだ姿か。

(洋子評)

◆筆の弾力性を駆使したダイナミックな筆力は、他を圧倒する気迫があり、「率意の書」としての魅力を存分に表現している。

(紅瑠評)

千葉清翠書

48×170cm



「土井晚翠詩」  
千葉清翠

現代詩文書 (四葉)

◆オーソドックスな2首書きだが、線質の柔らかさと濃淡の調和で、この形式の典型美となつた。

(洋子評)

◆軽快なリズムで万葉歌2首を書き流す。潤滑の変化が紙面に動きを与え、爽やかな雰囲気を醸し出す。

(大雲評)

◆万葉歌2首を変化に富む行構成でまとめた。自然な運筆で軽やかなリズムが快い。線の柔軟さと墨量の変化見事。

(紅瑠評)

◆左右の余白を生かした構成が紙面全体にリズム感を与えて楽しい作。微妙な細線の響きが魅力的。

(大雲評)

◆ポイントの3行の扱いが利き、成功した構成。長峰濃墨の書線が表情豊かに響き、秀れた技量です。

(洋子評)

◆超濃墨、長峰を駆使し細線まで強い。漢字のデフォルメも身に付いており中字長文が近代の詩にマッチ。

(翠風評)

◆濃墨、超長峰から生まれる線質の変化が楽しい。中央の盛り上げと後半のまとめが効果的で、落款も見事に調和。

(洋子評)

◆2首の歌が1つの紙面に融合して自然な美しさを醸している。墨つぎのツボを心得て美しい秋の2首。

(翠風評)

司 余山中

極樂無事

漢字 (もくせい)

西川藤象

「山中歌」

54×173cm



西川藤象書

◆いつもながらの爽やかな運筆で、自然な横展開の作。大小、潤渋のバランスもよく安定作である。(大雲評)

◆濃墨、長鋒を生かし明るく美しい。読み易い点でも現代の漢字作品の一つのスタイルを示していよう。(翠風評)

◆手慣れた形式と窺うが、細線を織り交ぜた運筆のリズムが自然で軽やか。少々沈着な箇所も欲しいかと。(洋子評)

◆巧みな筆さばき、軽快なリズムが魅力。文字の大小・太細・潤渋の変化に富み、空間構成も美しい。(紅瑠評)

前衛書 (白珠)

磯沼麗華 「夢」

◆何よりスケールの大きさと豪快さが漲っている。中央部の筆の瞬発力から生まれた渴筆がすばらしい。

◆思い切った書き出しから下部への展開はエネルギーッシュで、筆者の呼吸が伝わってくる。気力充実作。

(大雲評)

◆氣迫に満ちた運筆が迸る。潤渴のみで立体的なオブジェを創る不思議さに感じ入る。落款位置に疑問。(洋子評)

◆主張がはつきりしておりモニュメンタルな造型の美を感じた。偶發的に生じた小さな墨の零も効果。(翠風評)



磯沼麗華書

148×42cm

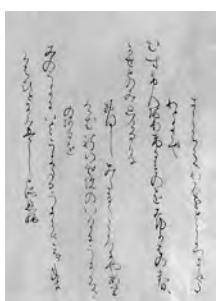
臨書 (高崎) 根津飛龍 「小島切」



根津飛龍臨

53×180cm

部分拡大



◆小島切の切れのよい鋭敏な線をよく理解して具現化した姿勢に敬意。特に転折の筆の扱いが見事です。(洋子評)

◆細部までよく観察し、原本の特長をよく捉えている。基礎技術が安定している証左であろう。(大雲評)

◆長文多字の何処を切り取っても、ゆるぎがない。筆者の精神の高さを思い敬服します。(翠風評)

◆難度の高い小島切の特徴をよく捉えている。墨の濃度も紙料に適い、渴筆の細線まで筆力が充実した秀逸作。(紅瑠評)

(翠風評)  
(紅瑠評)

(高崎) 根津飛龍 「小島切」

創作の部(47点)	前衛書の部(36点)	漢字	かな	現代
篆刻	19点	14点	7点	15点
漢字	31点	—	—	—
かな	5点	—	—	—
現代	—	—	—	—

総出品点数 83点

漢字研究部  
(祭姪文稿)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



島山芝香



律龍杏雅煌美  
子惠華邦泉怜

菜真真瑤遊絢智  
摘要理子翠山水

梨蒼邑萩香翠  
秀風里雨燁江

白祥正晃谷陽  
琴扇子光惠光

漢字研究部 特選 島山 芝香  
線にねばりと厚みがあり、直筆を駆使する  
顔法がよく表現されている。しかも筆の動き  
も伸びやかで氣宇雄大なところが素晴らしい。  
下2文字が画数も少なく小さい文字なので、  
落款の位置がもう少し下であつたらと惜しま  
れる。

◎漢字研究部総評

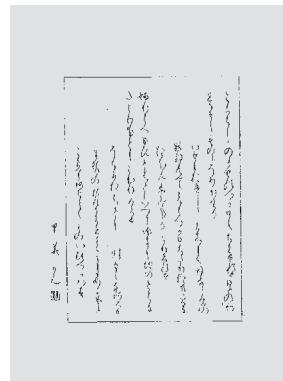
原帖は草稿なので文字の訂正のため上書き

したり、消したりしてあるため、筆脈がつか  
みにくかったと思います。しかし、祝文が付  
してあるので、字典でよく調べて書くように  
しましょう。「真・卿・庶・羞・祭・姪・贈・  
徳」などで誤字や危うい崩しが眼につきまし  
た。団体によって書風に得手不得手があるの  
は当然ですが、幅広く古典を学ぶことによっ  
て克服していくといきたいのです。またどこを選  
んで書くかも、作品の出来映えを左右します。

か な 研 究 部

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



坂本里美

端正な字形で静謐な世界を作りあげています。原本を丁寧に観察しようとする学書態度に好感が持てます。行間の取り方が良く、気品を高めました。

かな研究部成績表

梅こ竜石八誠も  
桃だ泉習街和く秀  
秀  
大太今犬石石青  
西石村銅渡崎木  
作  
一星貴道翠甘藤  
美祥泉石径雨連  
60  
梅黒宇嶋齋中茂西富小清後松六浜伊安青飯高磯浅福松坂  
津柳田田村木澤澤峰水藤蒲本野藤木高橋貝川田丸本  
佳川与シ理美由木美み万  
代竹春祢舞ヶ絢彩恵加紀良玉弘永寿代松幹雅清な里愛里  
子葉華子夢子水峰子泉江景子月生泉耀江子石美  
東書調無竜あ調墨蓮百大京A有澄洞東は玉高雲竜上紅澄龍澄蒼椿大彩広福  
実游布門泉か布宣紅谷雲橋I秋春書向せ松崎溪泉泉霧春泉春陽翠阪島山泉  
吉遊行山森本武真原本堀堀藤福深吟瀆畠長橋根仲土草高須新鶴齋込小小岸川川加  
田佐平中田吉藤庭田郷切川村田堀尾田山谷谷本津西谷草田行田藤山林林木本崎  
夕夕か川ま千内  
眞一良清龍潤幸ヶ美谷幸魯昌キ清波竹芝久千紅飛游泛つ代  
理盤江王博幸時幸雲幸雲幸之了云幸雲幸雲幸之了幸雲幸雲幸之了幸雲幸雲幸之了幸  
う竜大竜紅石意  
る泉雲泉風習書  
特選

こ昌東幸竹華椿硯こ澄泉前京麗白一泉洞秀<sup>アシカ</sup>澄土高書千松高樹館た大附う生白竹大こ華安大澄高こた誠澄八や有八こだ苑伯扇扇仙翠水だ春会橋橋澤珠心会書歌<sup>アシカ</sup>春氣岐游葉村崎原山か雲中<sup>アシカ</sup>大扇扇雲こ祥波阪春真だか和春街み秋生だ佳

吉吉山山山安宮宮增北春春長西西永中筑高高杉神社庄渋鹿酒紺小河高国木北神河河加加小小梅梅鶴宇井伊石石五  
野田本村口幡川田條山岡谷山岡田村井橋野田宮司谷田井野山野武峰村又田岡合藤野川山原木澤井上東川川寺  
眞川世佳鳳  
彩翠真梅雪草洋草洋清勝勝裕弘時至寛宏幸祥玉咏愛志知遊笙白玄理順春典星和翠雅久蘿久纏琴瑟芝京洋代佳  
徒結翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美翁子美

誠生春弘正八た富硯竹芳や大蘭広正英大生千梓広蘭琇大樹  
青明玉秀上高清東澄秀高誠うN彩正八岩正千書大も澄遊松  
誠和大江舟華生か實水美蘭ま阪鳳昌華峰阪大葉江昌龍阪  
華巨沼華游阪くく春雪村

## 〔特別昇級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を  
臨書する。掲載以外は違反となります。

大隋使持節大將軍工  
兵三部尚書司農太  
府右庶子左衛率  
卿太子

字 宙 宙 而 治 幽 明。動 風／雲 而 潤 江 海。斯 皆 紀

高野切第三種

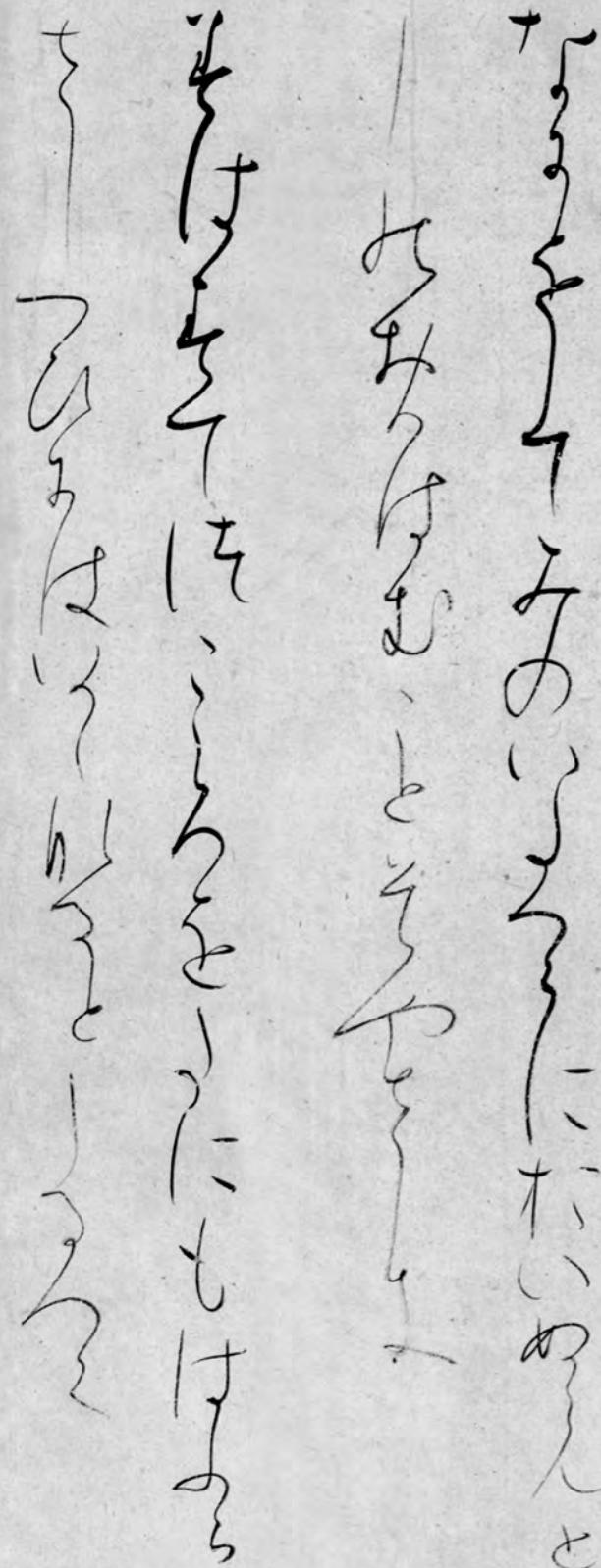
かな部

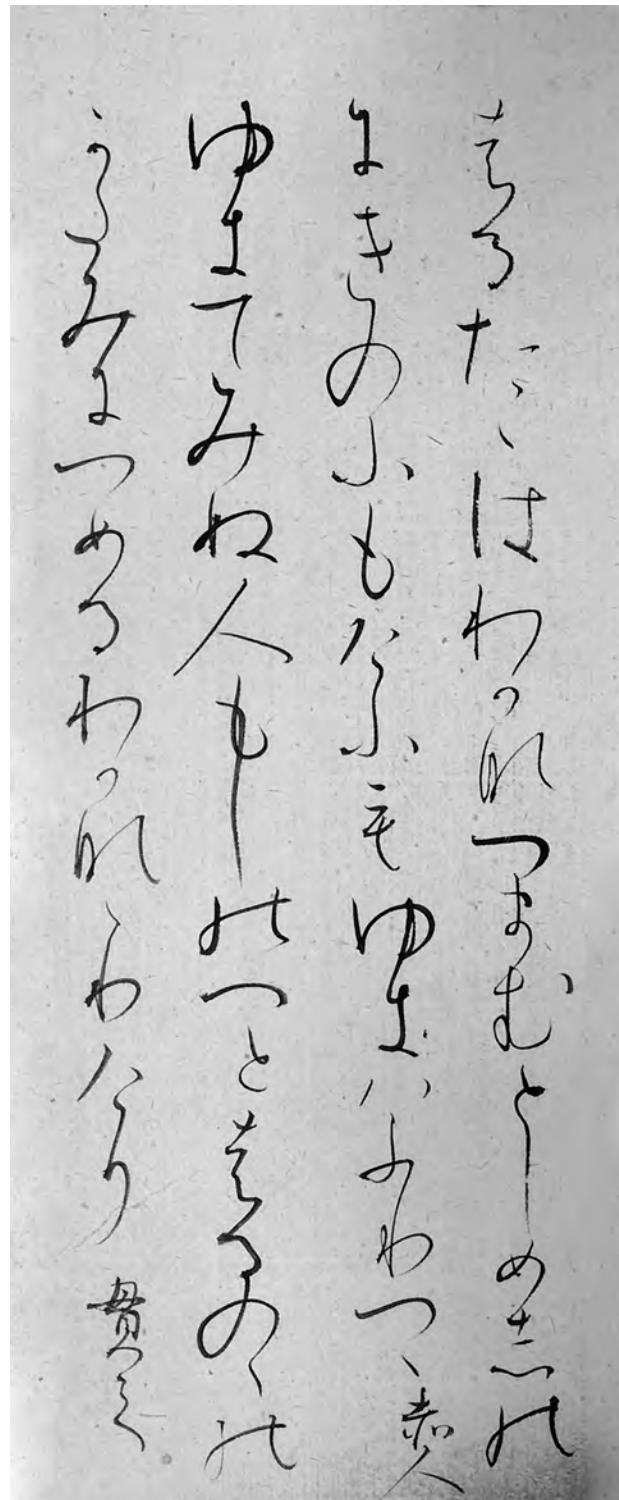
第一種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く  
(料紙可)

△  
93%  
縮小▽

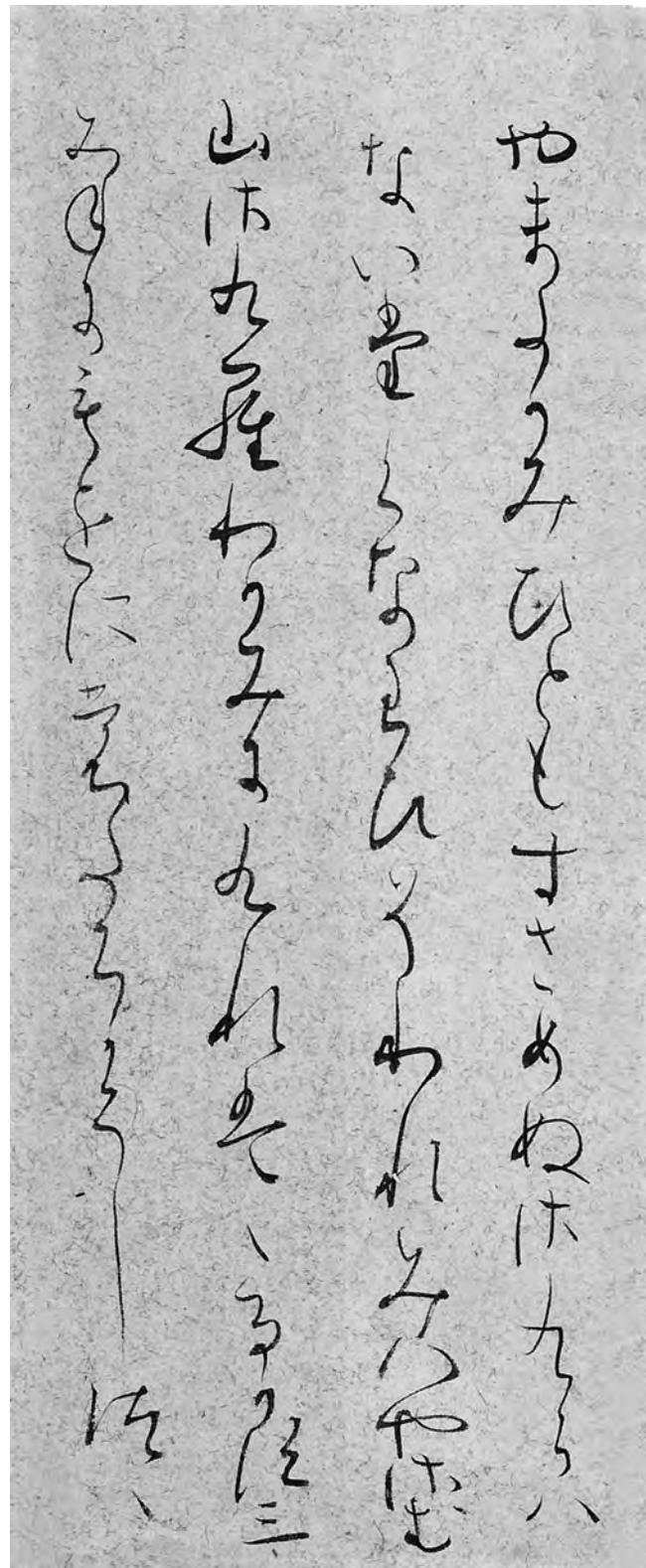
なにをしてみのいたづらにおいぬらんとしのおもはむことぞやさしき  
みはすてつこゝろをだにもはふら／さじつひにはいかゞなるとするべく





はるたゝばわかなつまむとしめしの／にきのふもけふもゆきはふりつゝ赤人  
支那志能利毛支八利  
ゆきてみぬ人もしのべとはるのゝの／かたみにつめるわかなゝりけり貴之  
支那利介

やまたかみひともすさめぬさくらば堂久王八佐九羅  
山ざくらわがみにくればはる九九るがすみみね年尔毛にもをまつた多可久徒たちかくしつム



たて 13.2センチ×よこ 12.7センチの枠を  
半紙に書いて、その中に書くこと。

落款は枠内に入れること。

別紙を裁断して貼付してもよい。

△原寸大△

徒  
つらゆき

ちゆく

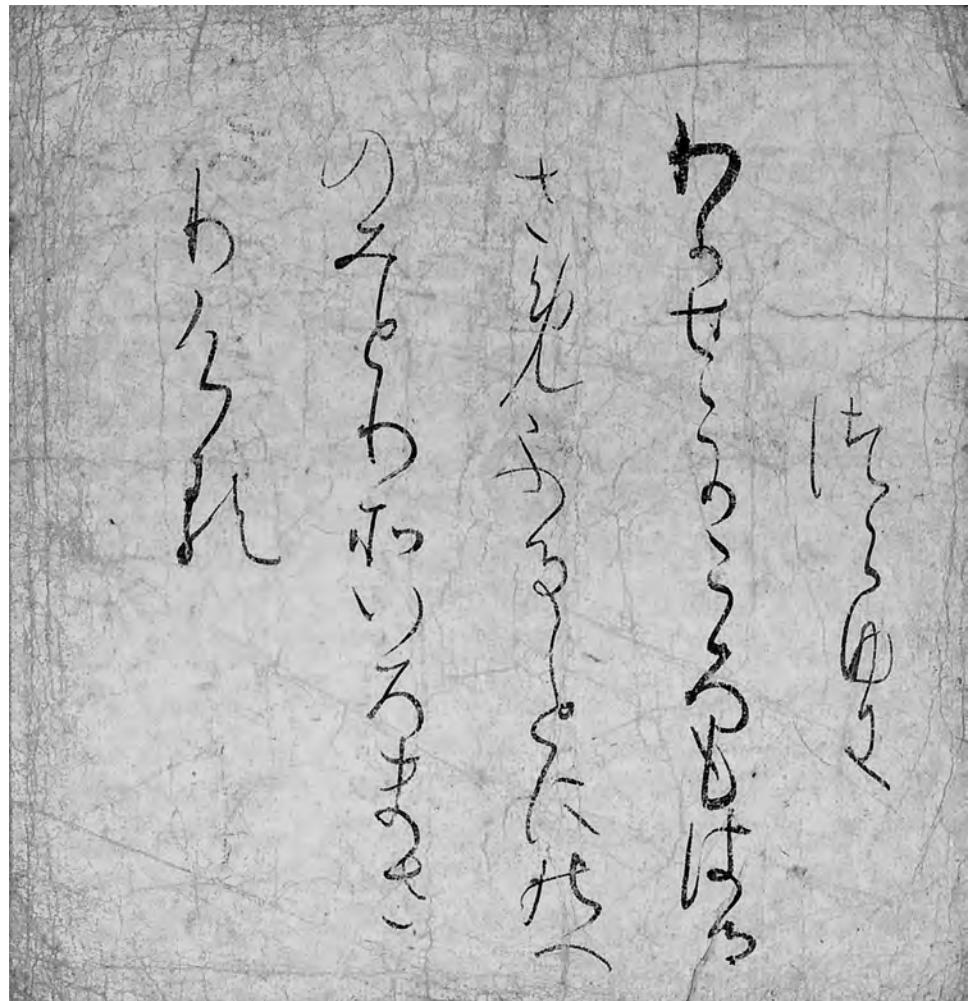
ウセムツモモハ

わがせこがころもはる

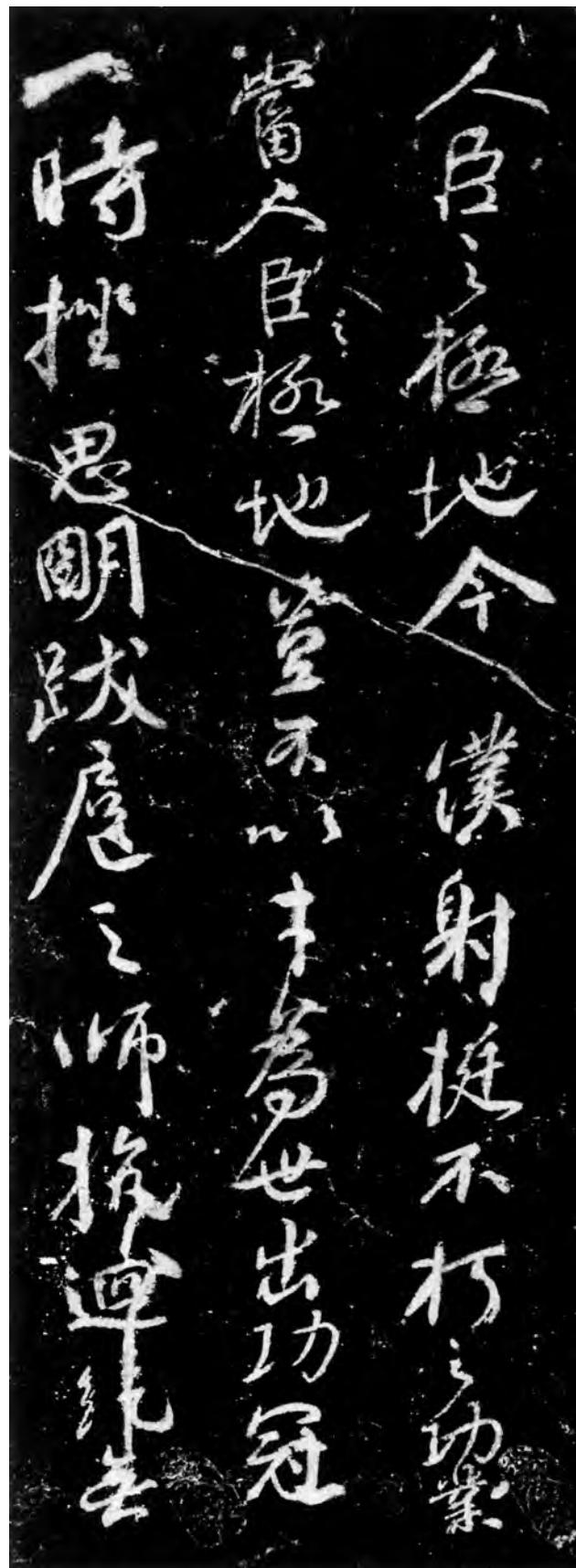
さめふるごとにのべ

のみどりぞいろまさ

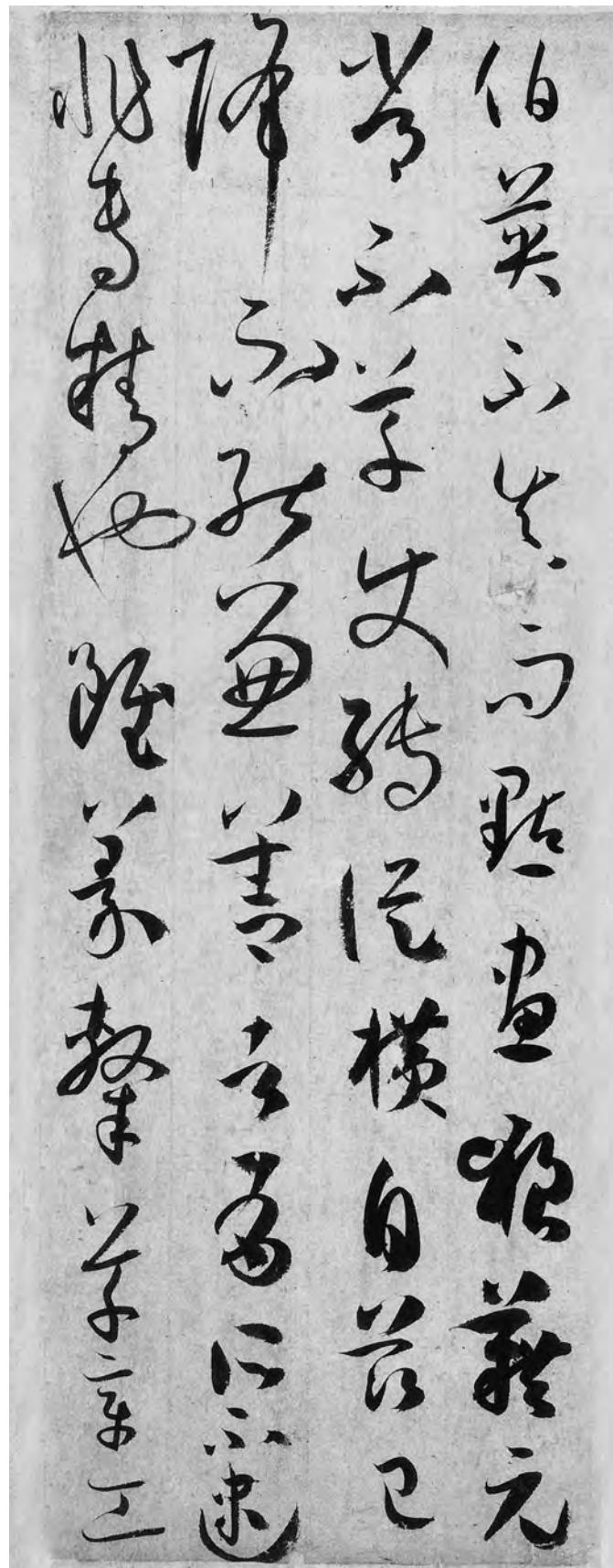
利  
りける  
介  
類







人臣之極地。今僕射挺不朽之功業。／當人臣之極地。豈不以才爲世出。功冠一時。挫思明跋扈之師。抗迴紇無



伯英不眞而點畫狼藉元常不草使轉從橫自茲已  
降不能兼善者有所不逮非專精也雖篆隸草章工